

三の丸界限スマホdeまちめぐり 見どころマップ



● 尾張徳川家コース

■ 近代名古屋コース

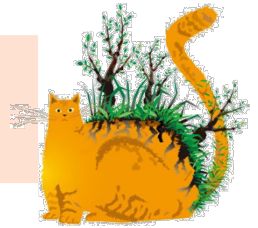
★ 学問と文化コース



チェックポイント



トイレ



チェックポイント

- スマートフォンをお持ちの方は、下記の4カ所でナビのスタンプを取得してください。
- スマートフォンをお持ちでない方は、下記の4カ所で写真を撮影してください。
- いずれも普通に見学できる場所にあります。



① 加藤清正公像



② 二之丸大手二之門



③ 愛知県図書館



④ 明倫堂跡

見どころ案内

尾張徳川家コース

慶長18年(1613)頃には碁盤割りの街並みもほぼ出来上がり、清須から人や寺社仏閣などが移り、賑わいました。名古屋城の金鯱や碁盤割りの城下町は、平和の象徴と徳川家の威光を示す狙いだったのでしょう。家康公の作り上げた名古屋城と城下町の歴史を感じられるコースです。

● 名古屋城正門・恩賜元離宮名古屋城碑

正門は西之丸にある櫓門(やぐらもん)で、築城時は榎多門(えのきだもん)と呼ばれていました。明治43年(1910)に旧江戸城内の江戸城蓮池門が移築されましたが太平洋戦争中の空襲で天守閣とともに焼失し、昭和34年(1959)天守閣と共に再建されました。門の前に立つ恩賜元離宮名古屋城の石碑は、離宮時代を物語るものです。

● 加藤清正公像

名古屋能楽堂南側の南の丸公園に名古屋城の築城に貢献した肥後熊本藩初代藩主加藤清正公の銅像が立っており、この場所は隠れた桜の名所ともなっています。

● 御園御門(みそのごもん)跡

本町御門と共に南に広がる城下町と御園通りに繋がる枳形門で、三之丸内は西土居筋に繋がっていました。家老石河(いしこ)伊賀守家と大道寺家が警固役です。

● 名古屋東照宮

元和5年(1619)、徳川義直公が父家康公の三回忌に大祭を行い、三の丸に東照宮を勧請し家康公の神像を祀ったのが創祀で、三之丸東照宮とも呼ばれていました。明治5年(1872)名古屋鎮台が名古屋城内に置かれたのを機に、天王社(現在の那古野神社)とともに明倫堂跡地に遷座され、その後国宝に指定されました。空襲により主要建造物を焼失しましたが、昭和29年(1954)建中寺より義直公の正室春姫(高原院)の御霊屋を移築して社殿としました。

● 那古野神社

創祀は延喜11年(911)と伝えられており、当初は天王社と呼ばれていました。天文元年(1532)の合戦で社殿を焼失、天文7年(1538)織田信秀公により再興されました。名古屋城築城後は三之丸天王社と呼ばれ、城の総鎮守、城下町の氏神とされました。明治維新時に須佐之男神社と改称し、明治5年(1872)に名古屋鎮台が名古屋城内に置かれたのを機に明治9年(1876)現在地に遷座し、明治32年(1899)に那古野神社と改称しました。

● 茶屋新四郎宅跡

尾張中島家は、後藤家、角倉家とともに京都三長者と呼ばれた朱印船貿易商人中島家の分家で、俗に「尾州茶屋」といわれました。初代四郎次郎清廷の三男、新四郎長吉が徳川家康公の命令により、慶長19年(1614)に創始しました。尾張徳川家の呉服調達を命ぜられた一方で、幕府呉服師にも任命されました。將軍、老中、大名諸家の接待、饗応や内使の用務も行っていました。

● 本町通の道標

名古屋城の正門から南の熱田へと延びる南北の幹線道路・本町通と碁盤割の北端を東西に延びる京町通の交差点に置かれた道標です。「東 ぜんこうじみち 北 おしろ 南 あつた 西 みのじ」の刻印があります。

● 東御門(東大手門)跡

東御門は中下級武士が出仕する時や、上級武士が三之丸から城外に出るとき、商人が出入りする時などに使われた重要な門です。近くに名鉄瀬戸線東大手駅があり、その前に東大手門の説明板が残っています。

● 御土居下同心(おどいたどうしん)屋敷跡

この地は名古屋城内からの非常脱出口にあたる場所で、尾張藩はここに同心屋敷を置き、譜代の同心を住まわせていました。彼らは御側組(おそばぐみ)と称し、表向きは藩主の側近として仕えていましたが、万一非常の場合は、藩主を護衛して木曾路に脱出させるという極秘の使命が課せられていたのです。組員は世襲で18名に限られ世間との交渉はありませんでした。藩主の側近であったため高度の教養を積み、文武に優れた逸材が多かったといわれています。

● 二之丸東二之門跡

かつては二之丸大手二之門と同様、武士が出仕するための重要な門でした。現在は名古屋城二之丸にある愛知県体育館や名古屋城東出入りに繋がっています。この門は本丸東二之門址に移築され、重要文化財となっており、高麗門の形式をとっています。

● 二之丸大手二之門

二之丸西側にある枳形の外門となるもので、内門である大手一之門(現存せず)と共に古くは西鉄門といわれ二之丸正門を形成していました。俗に枳形御門ともいい、一間一戸、屋根切妻造本瓦葺で、高麗門の形式をとっています。二之丸東二之門跡と共に重要な出入りで、戦災を免れ重要文化財に指定されています。この奥には歩兵第六連隊由来碑などが並んでいます。

近代名古屋コース

明治維新時、尾張藩は勤王へと藩論を統一し官軍と戦う事がなかったため名古屋城はそのままの姿で新しい時代を迎えました。その後、三の丸界隈は第三師団司令部や衛戍病院、兵舎などが立ち並ぶ一角となり、戦後は進駐軍の宿舎としてアメリカ村とも呼ばれた時代を経て現在の官庁街が作られていきました。近代名古屋の発展を感じられるコースです。

■ 名古屋市役所本庁舎

昭和天皇御大典の記念事業として建設され、大阪府庁舎も手掛けた平林金吾氏の建築案が採用されました。時計塔の時計は四方にあり、以前は毎日手動でゼンマイを巻いていましたが、今は自動化されています。名古屋城との調和を図った意匠の四方睨みの鯉と共に、二重屋根の下に鬼の彫像が24個配置されています。平成26年(2014)に「意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの」として県庁本庁舎と共に重要文化財に指定されました。

■ 愛知県庁本庁舎

昭和天皇御大典の記念事業の一つとして、昭和13年(1938)3月完成。庁舎の基本設計は、建築家の西村好時氏と渡辺仁氏に委嘱し、愛知県内務部営繕課が実施設計を行いました。外観は異なるタイル張による三層構成で、三方の中央に名古屋城大天守を思わせる破風付の入母屋造屋根を乗せた帝冠様式の意匠が特徴的です。北側に隣接する名古屋市役所本庁舎とともに平成26年(2014)、国の重要文化財に指定されました。

■ 瀬戸電旧大津町駅跡

瀬戸電(現在の名鉄瀬戸線)は瀬戸で作られる陶器の輸送と陶器作りに必要な資材の運搬を主な目的として、明治38年(1905)に開業したのがはじまりです。昭和51年(1976)の栄町駅乗り入れまでは瀬戸電の終点は堀川駅でしたが、ほとんどの列車はこの大津町駅で折り返し運転をしていました。大津橋の西側には当時の駅舎へと続いていた階段と手すりが残っています。

■ ヒメボタル生息地

この辺りはヒメボタルの生息地で、5月の中旬から6月の中旬まで(ピークは5月末から6月上旬)が見頃です。「姫」という名前がついているヒメボタルはゲンジボタルやヘイケボタルよりも小さく、幼虫は陸生で森林などの湿った土に生息しています。

■ 愛知縣護國神社

明治元年(1868)、徳川慶勝公が、戊辰戦争で戦死した藩士等25柱の神霊を祀り、翌年「旌忠社」として奉斎したことに始まり、さきの大戦に至るまでの県下の全戦没者をお祀りしています。昭和10年(1935)遷座時の社殿は、空襲で一切を焼失しましたが、昭和33年(1958)に本殿・拝殿を始め社務所・神門・舞殿・廻廊が再建されました。現在では、平和と幸せを祈る神社として、諸祈願や神前結婚式を執り行ないます。8月16日には、平和な日本の「いしずえ」となられた御英霊に感謝の誠を捧げる4000燈の献燈が境内に広がります。

■ 第三師団司令部煉瓦(レンガ)堀

現在、水資源機構や名古屋農林総合庁舎のあるこの地は、江戸時代、三之丸天王社(現在的那古野神社)や三之丸東照宮(現在の名古屋東照宮)があった場所です。明治時代には第三師団司令部が置かれ、現在も当時の煉瓦堀が残されています。

■ NHK放送記念碑

この地で名古屋放送局がラジオ放送を開始したのは、東京・大阪と同じ年、大正14年(1925年)7月15日。名古屋放送局は、その前年、神野金之助氏など地元の財界人有志が資金を出しあい、全国で初めて出願申請をして設立されました。第3師団練兵場からの日本初の屋外中継(大正14年)や御園座からの劇場中継(大正15年)などに次々と取り組み、放送の礎を築きました。当時の局舎は太平洋戦争中の空襲により、一部を残し消失しましたが、予備演奏所(中区錦)から放送を継続しました。昭和21年に局舎を再建、テレビ放送開始の翌年、昭和30年(1955年)に東区久屋町(現在の東桜)に移転するまで、この地から放送を出し続けました。

■ 愛知県図書館

江戸時代は大道寺家や横井家などがあった地で、陸軍用地を経て、アメリカ領事館がありました。県図書館は昭和34年(1959)に開館した愛知県文化会館愛知図書館を経て、平成3年(1991)4月現在地に新築移転し、愛知芸術文化センター愛知県図書館として開館しました。

■ 瀬戸電終点旧堀川駅跡

明治44年(1911)瀬戸電(現在の名鉄瀬戸線)は土居下駅までと、堀川駅までの2段階で開通し「お堀電車」とも呼ばれ長く親しまれていました。その後舟運から陸運主体となり貨物需要が減少し、また地下鉄開通により大曽根乗換が増え乗客も減少し昭和51年(1978)の栄町駅乗り入れにより廃止されました。

学問と文化コース

徳川家康公の作り上げた碁盤割りの城下町は清須から移り住んだ多くの町人でにぎわい、文化や学問が発展しました。芸能・美術・文学の分野では後世に残る名作が作られ、学問の分野では優れた学者が多く誕生しました。江戸の名古屋のまちの賑わいを感じられるコースです。

★ 名古屋能楽堂

平成9年に名古屋城正門前に完成。総木曾檜造りの能舞台は世界最大級の規模で、イヤホンガイド設備を備えた630席の見所(けんしょ)は、月に4～5回の舞台公開日などに見学が可能です。能面や能装束を展示し、能楽について紹介する展示室(無料)や能面体験コーナーもあります。

★ 横井也有出生地

横井也有は、元禄15年(1702)にこの地で生まれ、用人、寺社奉行など尾張藩の要職を歴任しました。53歳の時に病気を理由に隠居し82歳で没するまでの30年間、城南前津(現在の中区前津一)の草庵で吟詠自適の生活を送りました。多才多能の人で、とりわけ俳文に優れ、尾張俳壇に大きな影響を与えました。代表的著作に「鶉衣」があります。

★ 大原幽学出生地

大原幽学は、江戸後期の学者で寛政9年(1797)この地に生まれたといわれています。神道、儒教、仏教を一体とする独自の実践道徳である「性学」を開きました。千葉県旭市には旧宅(国の史跡)が残っており、現在は大原幽学遺跡史跡公園として整備され、記念館になっています。

★ 明倫堂跡

明倫堂は、寛延2年(1749)に創立され九代藩主徳川宗睦公の時代に藩校として再興されました。天明3年(1783)に細井平洲が初代総裁になり、藩士の子弟だけでなく、農民や町人にも儒学や国学を教えました。明治4年(1871)廃藩置県により廃校となり、その後、明倫中学から明和高校になっていきました。

★ 中林竹洞(なかばやしちくどう)出生地

本名を成昌といい、安永5年(1776)産科医中林玄棟の子としてこの地で生まれました。幼時より画を好み、14歳の時、山田宮常に就いて画法を学び、さらに神谷天遊のもとに山本梅逸と共に寄寓して、所蔵の古画の臨模に励み、南画の手法を会得しました。花卉山水が巧みで、とくに墨竹画に優れていました。また、中国の経書やわが国の古典にも通じ、その見識は極めて高かったといわれています。

★ 河村瑞賢宅跡

河村瑞賢は、元和3年(1617)伊勢国に生まれ、後に江戸へ出て土木建築を請負い、巨富を得て江戸屈指の材木問屋となりました。彼の才知は、海運・治水の事業に最も発揮され、日本海沿岸から江戸へ年貢米を運ぶ東廻航路、西廻航路を確立すると共に、淀川の治水にも貢献しました。また尾張藩に招かれてこの地に住み、御用水や堀川等の水行の便について意見を述べたといわれています。※生年については元和4年(1617)という説もあります。

★ 少彦名(すくなひこな)神社

「薬と健康の神様」を祀る神社として、「無病息災」「病氣快癒」を祈願する為の神社です。付近には今でも薬を扱う会社が多く存在します。大国主命が丸裸にされた白兔の体を蒲の穂で治療を施し快癒した「因幡の白兔伝説」にちなみ幸運を招く「福兔」を社の象徴としています。社殿建立は、大正4年(1915)です。

★ 伊藤圭介出生地

蘭方医・植物学者である伊藤圭介は、享和3年(1803)この地に生まれました。少年の頃から父や兄、水谷豊文より医術や本草学を学び、文政10年(1827)には、長崎のシーボルトのもとで西洋植物学を研究し、『泰西本草名疏』を著しました。明治14年(1881)東京大学教授に任ぜられて植物学を講じ、明治21年我が国最初の理学博士となりました。※門は施錠されています。学校敷地の外からご覧ください。

★ 人見璣邑(ひとみきゆう)宅跡

人見弥右衛門(号は璣邑)は、享保14年(1729)幕府の儒官の家で生まれました。尾張藩士であった叔父の養子となり、尾張藩九代藩主徳川宗睦公の長男治休の侍講をつとめました。治休の死後は国用人、国奉行に抜擢されて庄内川分水、日光川潮入り工事などの治水を行いました。その後は勘定奉行を兼ね農政改革をすすめました。また、細井平洲とともに藩校明倫堂を開設し、「群書治要」を校刊するなど多くの事業に携わりました。

【問合せ】

名古屋市中区役所区政部地域力推進室
(中区役所5階)

〒460-8447 名古屋市中区栄四丁目1番8号

電話:052(265)2223 ファクス:052(261)0535

開庁時間 月曜日～金曜日

(休日・祝日・年末年始を除く)

午前8時45分～午後5時15分